

ペレットストーブ SSシリーズ 取扱説明書

2018_6

危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。

もくじ

	P
1. 安全にご使用いただくために	1~3
2. 離隔距離と設置場所の注意	4
3. 各部の名称	5
4. 本体組立	6
5. 仕様	7
6. 作動解説・制御機構	8
7. 燃料	9~10
8. ご使用方法(1)(2)	11~14
9. 日常のお手入れ	15~16
10. シーズンオフメンテナンス	17~18
11. 故障・異常の見分け方と処置方法	19~20
12. 点検と修理	21
3年間の製品保証	23

このたびは、本製品をお買上げいただきまして、まことにありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

温風式ストーブは
熱交換パイプの掃除
が重要です!

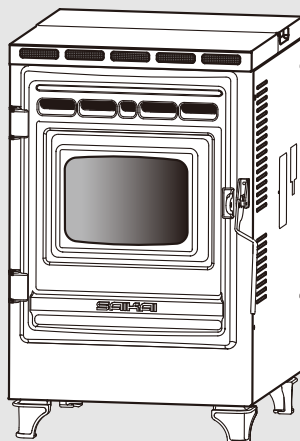
改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
また、ストーブや給排気管には床暖房用の熱交換器などを取り付けたり、他の目的で使用しないでください。火災や排ガスが室内にもれる原因となります。
保証対象になりません。

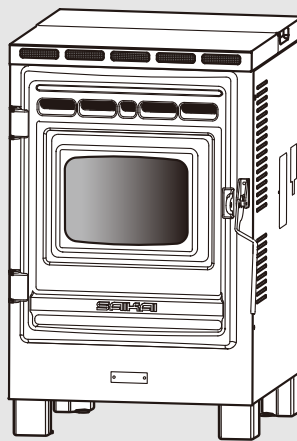
設置・移設工事は弊社指定の販売店に依頼してください。

設置・移設工事は弊社指定の販売店に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

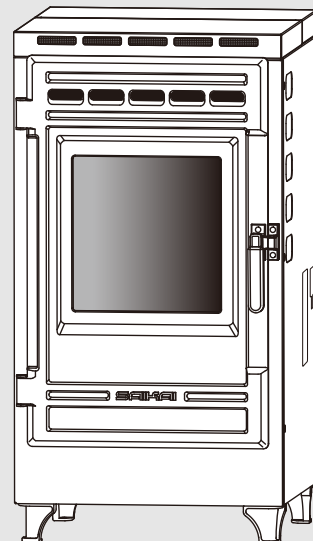
お客様の設置工事に不備があった場合、火災や事故の原因となります。



SS-5



SS-5 Plus



SS-10



日本の森を育てたい

SAIKAI

株式会社 さいかい産業

1. 安全にご使用いただくために

⚠ 火災防止の注意

⊙ 使用燃料は木質ペレット以外厳禁

燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料や液体燃料(灯油、ガソリン、軽油、アルコール、ベンジン等)を絶対に入れないでください。火災の原因になります。



⊙ 人のいない場所では使用しない

ストーブは居室の暖房用として作られたものですので、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。

⊙ 指や異物を入れない

温風吹き出し口やストーブの内部には、紙・布・プラスチックなどの異物を入れないでください。発煙・発火のおそれがあります。天面、側面吸気口の中に、指や棒などを差しこまないでください。けがをするおそれがあります。

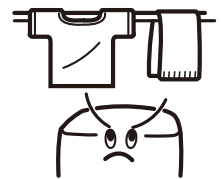


⚠ 外出する時は消火

外出のときは、必ず運転を停止し消火してください。

⊙ 衣類の乾燥厳禁

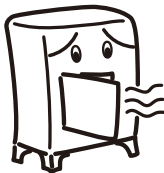
ストーブ上部に衣類等を掛けしないでください。落下した衣類等がストーブの熱で燃え、火災となります。



ストーブガード等でストーブを囲い、衣類等の乾燥をしないでください。ストーブが異常過熱して、火災の原因となります。

⊙ 扉開放厳禁

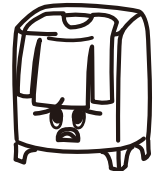
着火後は扉が確実に閉められていることを確認してください。燃焼中、外れ・すき間があると排ガスや炎が室内に漏れて、火災が発生するおそれがあります。



⊙ 温風吹き出し口・吸気口をふさがない

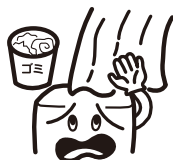
ストーブの前に干し物を掛けたり、障害物などで前面の温風吹き出し口や天面、側面吸気口のメッシュ部をふさがないでください。

熱交換ができなくなり、本体が過熱して操作部が変形したり、やけどや故障・破損するなど大変危険です。また、異常燃焼や火災の原因になります。



⊙ カーテン・可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離についてはP4・7を参照してください。

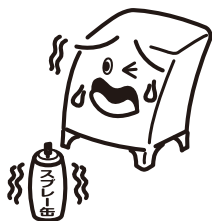


⊙ 腰をかけたり、物をのせないで

機器の上ののったり、腰をかけたりしないでください。機器の故障ややけどのおそれがあります。機器の上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

⊙ スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットコンロ用ボンベなどを温風のあたるところに放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発する危険があります。

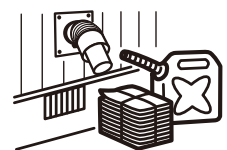


〈屋外〉

⊙ 給排気管付近の可燃物近接禁止

給排気管先端の近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。

ガスボンベや灯油タンクが排気出口周辺にある場合は各市町村の火災予防条例に従ってください。



⊙ 化学薬品を使用する場所では使用しない

クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では、使用しないでください。化学薬品などの影響により異常燃焼や故障の原因になります。

⚠ やけど・けが防止の注意

🚫 高温部接触禁止

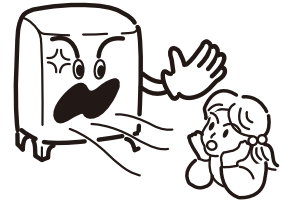
燃焼中や消火直後は、高温部（ストーブ前面や枠上部前面など）、給排気管先端に手など触れないでください。やけどのおそれがあります。



- 小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。

🚫 温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。



- 特にお子様やお年寄り、体の不自由な方が使われるときは、周囲の人が十分注意してください。

🚫 スパイラル部接触厳禁

燃料タンク底部のスパイラルには絶対に手を触れないでください。けがをするおそれがあります。

⚠ 電源についての注意

🚫 電源の接続

電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。電源コードは、途中で分岐・接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。

⚠ 電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ホコリ及び金属物を除去してください。ホコリがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

🔌 長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。

⚠ 電源プラグは確実に差しこむ

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。濡れた手で抜き差しはしないでください。感電の原因になります。



🚫 電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



⚠ お手入れ時の注意

⚠ 完全に冷えてから

必ず完全に冷えてからお手入れを行ってください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 灰受けの奥に異物がないように

灰受けをセットする際には、奥に異物が入らないようにしてください。燃焼に不具合をおこすおそれがあります。

🚫 研磨剤を使わない

研磨剤は使わないでください。傷がつくおそれがあります。

🚫 水をかけない

本体、燃焼部、接続部分等に水をかけないでください。漏電するおそれがあります。

1. 安全にご使用いただくために

⚠ 異常燃焼による事故・故障防止の注意

⊘ 扉・燃料タンクふた開放厳禁

運転中は絶対に扉を開けないでください。
また、燃料タンクふたを開けたまま運転しないでください。

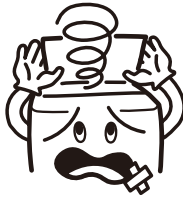
⊘ 給排気管先端には金網などは付けない

給排気管先端には、虫よけのための金網などは付けないでください。給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があります危険です。



⚠ かん合部の外れ危険

灰受けや扉、燃料タンクふたなどが確実に設置されているか確認してください。外れ・すき間があると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



⊘ 異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。



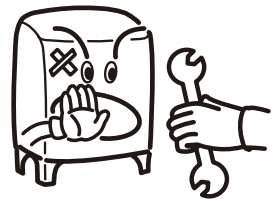
⊘ 給排気管先端閉そく危険

給排気管先端の周りが雪でふさがれたまま使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



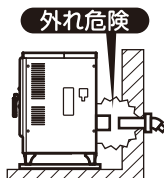
⊘ 分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。



⊘ 給排気管外れ危険

給排気管が外れたままの状態で使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



⊘ ご自身での据え付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。据え付け工事は販売店や専門業者に御依頼ください。(ストーブを移設させる場合も同じです。)



⚠ 設置後の環境変化に注意

排気出口付近の環境が設置時と変化した場合は、燃焼状態が変わることがあります。

- ・黒煙が出る
 - ・ススで壁が汚れる
- このような場合は、お買い求めの販売店にご相談ください

⊘ 排気出口を囲うような増築は禁止

- ・サンルーム
- ・ウッドデッキ等

⚠ 排気出口のそばの樹木が大きくなる

⚠ 隣の家の壁が排気出口に接近

⚠ 周辺の建設により風向きが変わった

2. ⚠️ 離隔距離と設置場所の注意

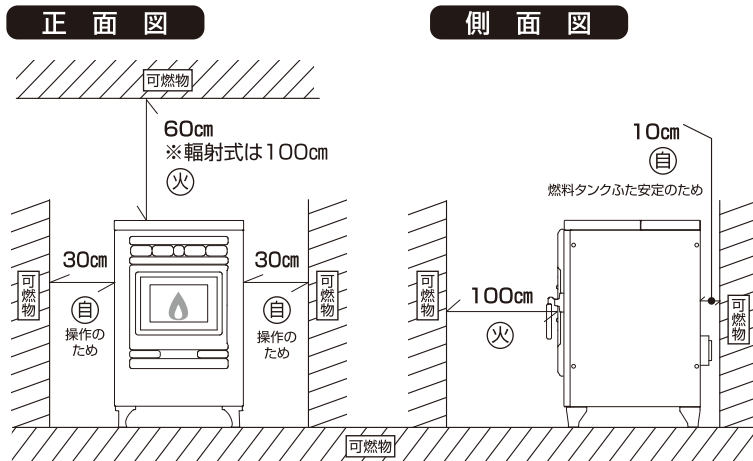
1. 室内での離隔 火災予防

ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようになっています。

- 可燃物との距離は図に示す寸法以上離して設置してください。
- 壁面との距離は保守・点検を行うためにも必要です。

⚡ ……火災予防条例により

Ⓜ ……自社基準
(火災予防条例+操作のため)



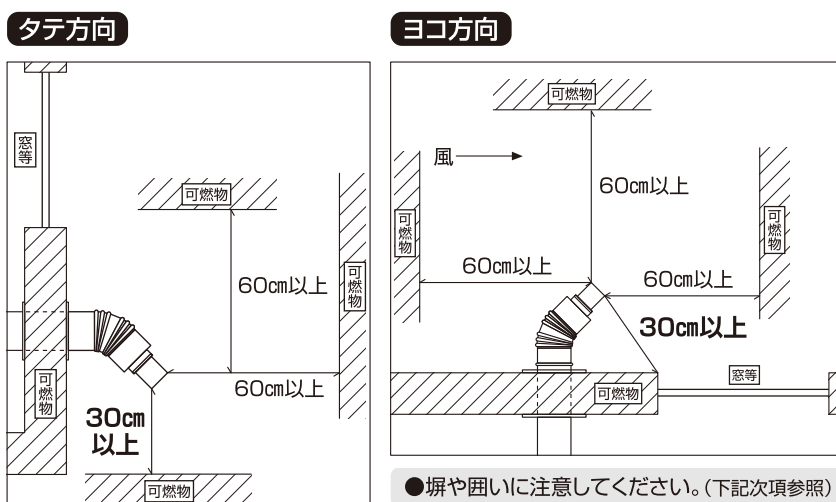
2. 排気出口の注意 火災予防

- 1 排気出口から可燃物との間は図の通り離してください。

※排気出口からは200℃の排気ガスが排出されます。
出口から30cm以上離してください。

- 2 排気出口は45°程度振って、風下に向けてください。

※排気出口が風上に向いていると、排気を阻害し、不完全燃焼を起こしたり、異常過熱を起こす場合があります。

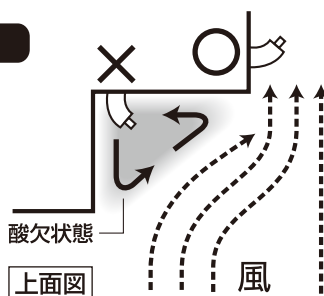


3. 設置に問題のある場所

このような場所に設置されると、排気がスムーズに行われず、燃焼不良が起こる場合があります。販売店とご相談のうえ設置場所を選んでください。

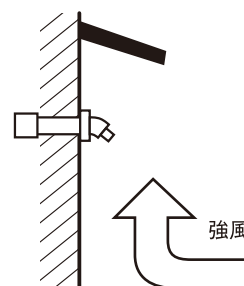
入り角となっている場所

- ・Xの場所では風が通らず、酸素欠乏状態となる場合があります。Oの場所に給排気口を設けるようにしてください。



強風が吹きつける面

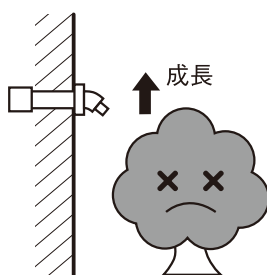
- ・特に下から強風が吹きつける面では、排気が阻害される場合があります。



塀や生け垣等で囲われている場所

- ・塀や生け垣等が、排気出口に接近していると、離隔不足で火災の原因になったり、排気が阻害され、不完全燃焼や異常過熱を起こす場合があります。

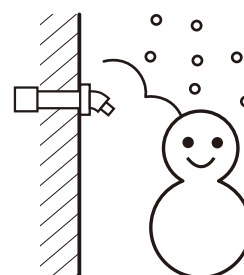
- ・庭木等は年数を経て、大きく成長して阻害要因になる可能性があります。



雪の積もる場所

- ・排気出口の周りに雪が積もる場所では、給排気を阻害し、不完全燃焼や異常過熱を起こす場合があります。周辺の構築物により、積雪の状態が変わる場合もありますので、ご注意ください。

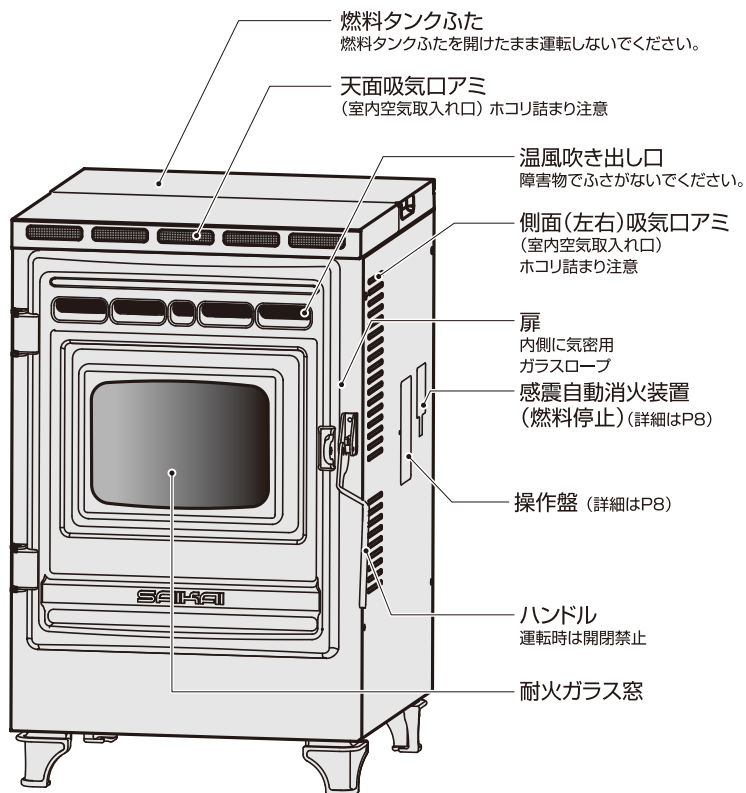
- ・「雪囲い」が2の①の排気出口からの離隔を確保されているかご注意ください。



3. 各部の名称

※SS-5・SS-5 Plus・SS-10 ともに部品構成は同じです。

全体図



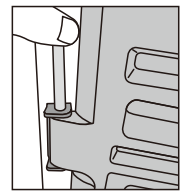
※イラストはSS-5です。
※SS-10のみ給気量調節レバーがあります。

扉の取付

扉ピンは扉にセットされています。

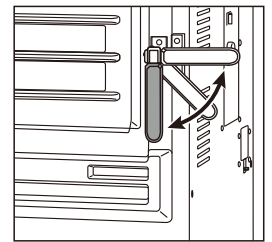
SSシリーズ共通

扉の外側から穴にピンを最後まで差し込む。

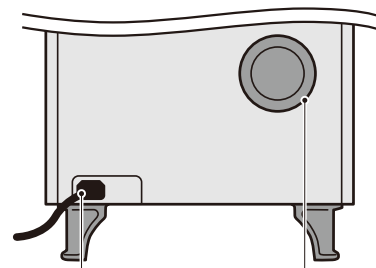


SS-10

本体受け金具とハンドル先端にグリスが付いていることを確認し、扉を本体に押し付けながらゆっくりとなじませるように真下より約30°手前まで「開閉」を繰り返してください。なじませずにいきなり動かしてしまうと、削れてしまうおそれがあります。



裏面図



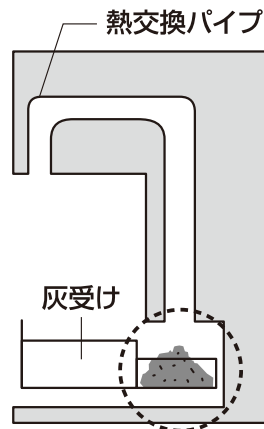
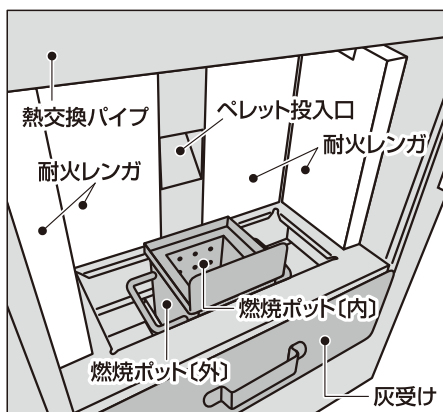
本体電源コード
アース線

給排気管接続口

本体・付属品

- ・本体
- ・灰受け
- ・レンガ(天面)×1枚
- ・レンガ(側面、背面)×2枚
- ・燃焼ポット[内・外]
- ・レンガスペース(大)×1ヶ
- ・レンガスペース(小)×2ヶ
- ・電源コード
- ・バネブラシ
- ・ホコリ防止テープ
- ・取扱説明書一式
- ・フェルト(床傷防止用)
- ・扉
- ・扉ピン×2本

内部図



熱交換パイプは内部に灰・ススがたまりやすくなります。
内部の灰・ススがたまり過ぎると、暖房能力が落ちて、異常過熱します。
(警報ブザーが鳴って停止します。)

バネブラシ清掃後、ここに熱交換パイプ内の灰・ススがたまりやすくなります(P16参照)

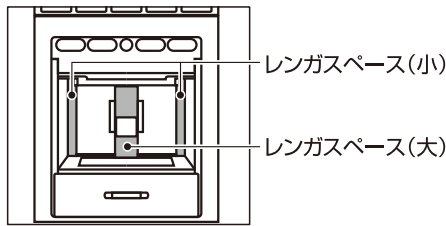
4. 本体組立

1. 耐火レンガ組み付け

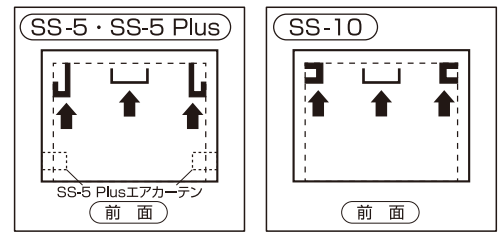
耐火レンガは蓄熱性と耐久性を向上させます。

①レンガスペース(小)とレンガスペース(大)を図のようにセットします。

【正面図】

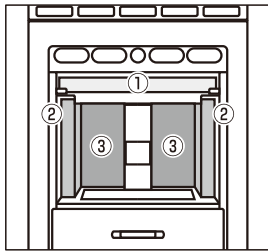


【上面図】



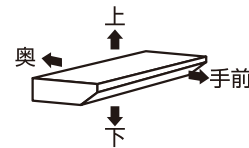
※SS-5は長い方を内側にしてはめてください。

②耐火レンガを図のようにセットします。



①天面レンガ

切りかき部を手前にして設置してください。

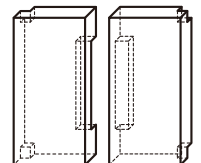


②側面レンガ



※SS-5・SS-10
手前からスライドして差し込みます。
※SS-5 Plus
上部から先に差し込みます。

③背面レンガ



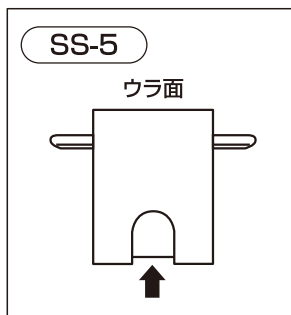
※上部から先に差し込みます。

2. 灰受けの確認

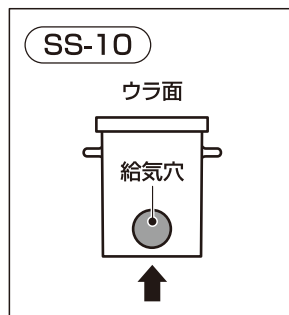
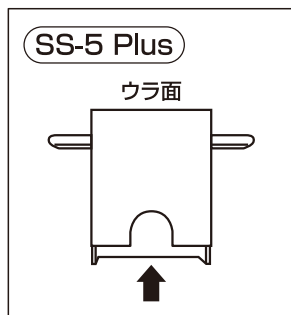
※納入時にセットされています。 しっかり奥まで押し込みます。

3. 燃烧ポット[内・外]のセット

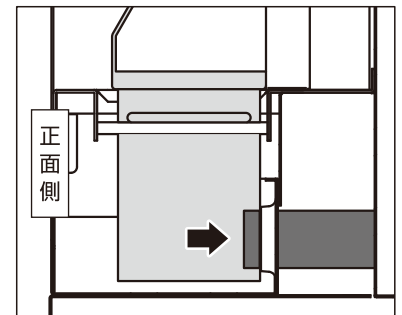
燃烧ポット[外]のセット



①燃烧ポット[外]は「半円の切込みのある面」を奥に向け、灰受け中央の四角枠内に置き、奥に押し込みます。



①燃烧ポット[外]は「給気穴のある面」を奥に向け、ガイドにのせます。



②給気穴に給気管が入るように、押し込んでください。

③取り外す時は、手前に引いてから引き上げてください。



燃烧ポットを設置する際、灰受けの燃烧ポット設置位置にペレットが落ちていないことを確認してください。ペレットが落ちていると燃烧ポットが正常な位置にセットされず、燃烧不良になる場合があります。

燃烧ポット[内]のセット



①必ず、ツバを手前にしてセットしてください。

②燃烧ポット[内]が浮いていると、十分な給気ができず、不完全燃烧(モヤモヤとした炎)となります。しっかりとハマっていることを確認してください。

5.仕 様

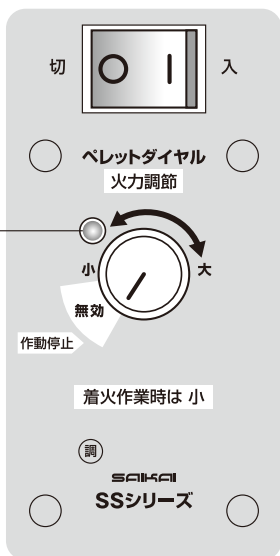
SAIKAI SS-5・SS-5 Plus・SS-10 仕様

		SS-5	SS-5 Plus	SS-10	
使用燃料	ペレット種類	木質ペレット(パークは除く、6~7mm対応)			
サイズ	外形寸法	約W480×D540(排気口除く)×H770(mm)		約W530×D560(排気口除く)×H1010(mm)	
	重量	約87kg(配送時は分割し、最大62kg)		約132kg(配送時は分割し、最大88kg)	
構造	給排気方式	強制給排気方式(FF)			
	構造	燃焼炉・外層2層構造(扉以外の外側は熱くなりません)			
	熱交換方式	煙管熱交換方式(月1~2回の清掃が必要です)			
	蓄熱方式	燃焼炉内面に耐火レンガを組み込み、高い蓄熱性能			
	燃料タンク容量 ^{※1}	12kg(最大燃焼で約7時間分)		24kg(最大燃焼で約7時間分)	
暖房能力 ^{※1※2}	暖房目安	15~40畳程度 ※暖房面積は建築条件により変わります。	15~35畳程度 ※暖房面積は建築条件により変わります。	20~50畳程度 ※暖房面積は建築条件により変わります。	
	燃料投入量	約0.5~1.7kg/h(無段階調節・10kg袋で6~15時間)	約0.5~1.54kg/h(無段階調節・10kg袋で6~15時間)	約1.0~3.2kg/h(無段階調節・10kg袋で3~8時間)	
	最大時	熱量	6,698kcal/h(低位)	6,068kcal/h(低位)	12,608kcal/h(低位)
		暖房出力	6.6kW	6.0kW	12.5kW
	最小時	熱量	1,970kcal/h(低位)		3,940kcal/h(低位)
		暖房出力	1.9kW		3.9kW
計 算	※熱量(消費カロリー)は全木ペレットの低位発熱量 3,940kcal/kgで計算 ※暖房出力は熱量×燃焼効率で算出				
操作方法	点火方式	手動点火(点火作業は1~2分)			
	温度調節	ペレットダイヤルにて、ペレット投入量を調節(無段階調節)			
電力	電源	AC 100V 50Hz・60Hz(電源コード長2m)			
	定格消費電力	70W		77W	
運転音 ^{※3}	前方1m	48dB程度		46dB程度	
安全装置	感震装置	手動復帰式 感震自動消火装置(燃料停止) 搭載			
	過熱検知	異常過熱センサー 搭載(異常加熱時にペレット供給停止・警報ブザー)			
	過電流	ヒューズ 5A 2本			
	消火制御	主電源切断後、排気ファンはタイマーで自動運転			
メンテナンス	灰除去	灰受けを1週間に1回程度(毎日8時間燃焼)			
	熱交換パイプ掃除	付属のバネブラシで月1~2回(15分程度/1回)			
	排気管掃除	シーズン終了後、集塵機で灰・ススの吸い取り			
	吸気口掃除	天面、側面吸気口のホコリを吸い取る			
	メーカー(販売店)メンテナンス	使用頻度にもよりますが、目安として1~2年に1回、販売店によるメンテナンスをお勧めします。 公共施設等の場合、販売店による年1回のシーズンメンテナンスが必要。			
設置	使用配管	FF2重管(外径φ110mm・内径φ75mm)			
	炉台	不要(汚れ防止用オプションあり)			
離隔距離	上	60cm(火災予防条例による)			
	前	100cm(火災予防条例による)			
	右横	30cm(自社基準)			
	左横	30cm(自社基準)			

※1:燃料により変わります。 ※2:住宅の気密性・構造によって変動 ※3:(参考)ルームエアコンの運転音 42~48dB(前方1m)

6. 作動解説・制御機構

【操作パネル図】



赤ランプ

【点灯時】…作動可能
ペレット供給モーターは
作動可能な状態です。

【消灯時】…作動停止
電源スイッチが入ってい
ないか、感震自動消火装
置が作動しています。

電源 スイッチ

スイッチを入れると、排気ファンが回り、ペレット供給モーターが作動可能(赤ランプ点灯)となります。

※消火時はストーブ内部を冷却するため、排気ファンは電源スイッチを切った後、一定時間回り続けます。
(SS-5・SS-5 Plus…40分 SS-10…60分)

ペレット ダイヤル

ペレットダイヤルはペレット投入量を無段階で調節します。

※無効ゾーンではペレットを送り出すことができません。
※電源スイッチが入っていないと作動しません。

【SS-5・SS-5 Plus】約0.5kg/時間 ~ 1.7kg/時間
【SS-10】約1.0kg/時間 ~ 3.2kg/時間

給気量 調節レバー

給気(燃烧に必要な空気)量を調節します。

「大」方向に回すと、給気量が増える。
「小」方向に回すと、給気量が減る。
※SSシリーズはSS-10のみ

※イラストはSS-5によるイメージです。

ファンの 風量

排気ファン・温風吹き出しファンはすべて一定の風量設定しており、調節はできません。

負圧

本製品は、排気ファンが排気を吐き出す逆の力で、燃焼用の空気を吸い込みます。

扉を閉めると、燃焼炉内は常時「負圧」がかかっています。
給排気経路に灰・ススが詰まる異常が起こると、この負圧が正しく働かず、異常燃焼を起こします。

ブザー

異常過熱でストーブ内部が90℃を超えると、警報ブザーが鳴り、燃料供給を停止します。

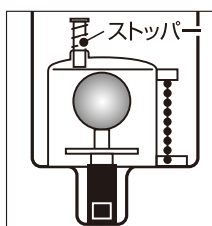
(詳しくはP14参照)

感震自動 消火装置 (燃料停止)

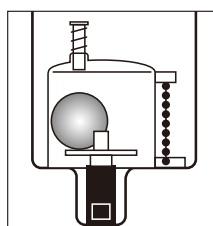
揺れを感知すると感震自動消火装置(燃料停止)の鉄球が落下して、燃料供給を停止(赤ランプ消灯)します。

※排気ファンは運転を続けます。

【地震の時は…】
P14をご覧ください。

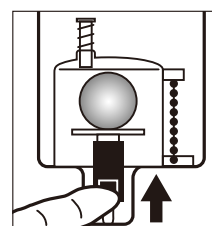


セットされた状態



鉄球が落下した状態
(赤ランプ消灯・燃料供給停止)

【作動したら…】
間違えて触れた
場合は次の方法
でセットし直して
ください。



リセットツマミを押し上げる
(赤ランプ点灯・燃料供給可能)



「ペレットが落ちてこない!」ときに確認してください。

ストーブ本体に衝撃を与えたり、感震自動消火装置(燃料停止)のツマミに触れても鉄球は落下します。
電源スイッチを入れても、燃料が落ちてこない場合は、鉄球が正しくセットされているか確認してください。



揺れやすい床では、少しの揺れや衝撃で作動する場合があります。
その場合は、床面を補強してください。

【ストッパーの解除】

●出荷時にはストッパーがセットされています。初めてご使用になる場合は、ストッパーを解除してからセットしてください。

※移設等により、ストーブを運搬する際はストッパーで鉄球を固定してください。感震自動消火装置(燃料停止)の故障の原因になります。

7. 燃 料

ペレット 燃 料

ペレット燃料には、原材料による違いがあります。

- 木部の製材クズ(オガ粉等)から作られたもの
- 間伐材等から作られたもの

ペレット燃料には、製造工程による物理的性質の違いがあり、
燃焼状態や燃焼後の灰・ススの残り方に違いが出ます。

- 粉になりやすい
- 燃焼後に残る灰・スス分の割合や砂の含有
- 水分の割合



本製品には、一般社団法人 日本木質ペレット協会が定めた「ペレット品質基準」に適合したペレット燃料を推奨しています。
詳しくはお買い求めの販売店にお問い合わせいただくか、日本木質ペレット協会 <https://w-pellet.org> をご覧ください。

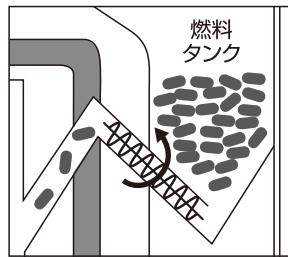
無段階 調 節

送り出す量はペレットの大きさや重さによって違います。

ペレットはペレットダイヤルの操作(モーターの回転速度調節)で、送り出す量を調節しますが、ペレットの形状や粉化度によって、同じダイヤル位置でも送り出す量が変わります。
また燃料タンクに満杯に入っている時と少ない時では、上からの荷重により若干の違いも出ます。

本製品は燃料の違いに
対応する機構です

ペレットは図のように燃料タンクから
モーターによって、ラセン状の送り出し
機構で燃焼ポットに投入されます。



※燃料の大きさ・かたさによってはペレットが折れる音が発生します。



禁止 次のペレットは燃焼不良や故障の原因となりますので、使用しないでください。



使用不可

- **バークペレット(樹皮ペレット)**
灰分が多いため燃焼ポットが詰まり、不完全燃焼の原因となります。
- **粉の多い(粉化度が高い)ペレット**
ペレット送り部入口に粉が詰まり、ペレットを送ることができなかつたり、ペレット送り部で粉が詰まり、破損する原因となります。
- **水分の多い(含水率が高い)ペレット**
灰・ススが多くなり、燃焼ポットが詰まり、不完全燃焼の原因となります。



毒禁止

- **建設廃棄物由来のペレット**
化学成分(特に塩素)が燃焼によりガス化し、サビや故障の原因となります。
※排気ガスからダイオキシンが発生することもあります。
- **一部の輸入ペレットにご注意を**
2011年、ベトナム産のペレットから、規格に外れた塩素や臭素が検出され、ストーブの損傷につながりました。
※建築廃材(防腐剤入り)から作られたペレットです。



注意

燃料保管方法の注意

直射日光が当たる場所では保管しないでください。結露の原因となります。
雨風の当たらない屋内で保管してください。湿ったペレットを使用すると、不完全燃焼や故障の原因となります。

ペレットの補給

- ① 燃料タンクのふたを開け、ペレットを補給してください。
⚠ このとき、燃料タンク底部のスパイラルには絶対に手を触れないでください。
- ② 燃料タンクのふたをしっかりと閉めてください。
⚠ ふたが開いていたり、異物が挟まっていると、ストーブ内部の気密性が低下し、異常燃焼の原因となります。
- ③ 電源スイッチを入れ、ペレットダイヤルを右に回し、ペレットが燃焼ポットに落ちてきたら、準備完了です。
電源スイッチを「切」、ペレットダイヤルを「無効」にしてください。



初めはペレットを送出装置に充てんするため、送り出されるまで時間がかかります。

タンク
容量

SS-5・SS-5 Plus

燃料タンク容量 12kg

「大」…約7時間連続燃焼

「小」…約18時間連続燃焼

タンク
容量

SS-10

燃料タンク容量 24kg

「大」…約7時間連続燃焼

「小」…約20時間連続燃焼

燃料タンクの掃除

月に1回(必要に応じて)

燃料タンク底部分に粉がたまってくると、ペレットが出にくくなります。
燃料タンク内を掃除してください。(P16参照)

ペレットダイヤル「小」燃焼時の立ち消えにご注意

立ち
消え

ペレットダイヤルを「小」の位置にしたときに、以下の理由により炎が立ち消えする場合があります。

- 🔧 ペレットが太い(8mm程度)
- 🔧 粉が多い
- 🔧 燃焼速度が早い
- 🔧 燃料タンク内に粉が多い(P9・16参照)

立ち消えに気づかず運転していると、燃焼ポットにペレットがあふれる現象が起こります。
その場合は下記の通り対処してください。

- 立ち消えした時は再度着火作業をし、ペレット投入量を多めにセットします。
- 燃焼中に立ち消えしそうになったときは、ペレットダイヤルを少し大きめに調整します。

灰・ススの処理方法

- 国の指針及び自治体の条例に従って廃棄してください。

8.ご使用方法(1)

初めて使用されるときは

試運転

設置後には、お買い求めの販売店より、「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」に基づき、「操作説明」を受け、「試運転」を行うことを確認してください。

慣らし運転

【“慣らし運転”をしてください】

初めて燃焼すると、塗料が焼ける臭いと白い煙が出ます。
大きめの火力で燃焼、必ず窓を開けて、換気しながら行ってください。
塗料が焼き付くと煙はなくなります。

※その後臭いが収まるまで最大で1週間程度かかることがあります。
大き目の火力(高温)でご使用いただくとより早く収まります。

【塗装について】

- 燃焼炉内の塗装は、ご使用までのサビ止めです。ご使用後、はがれても問題はありません。
- 燃焼ポット[内]は出荷時にサビ止め剤を塗布しています。耐熱塗装ではありません。使用によりさびが出ますが、問題はありません。

■ 次のような現象は故障ではありません。

- 煙や臭いが出る
…使い始めの塗料のやけ・ホコリのやけです。しばらく窓を開けて、換気してください。
- すぐにペレットが落ちてこない
…ペレット送り部に充てんされている途中です。10~15分程待ってください。
- ペレットが出てこない
…感震自動消火装置(燃料停止)を確認してください。
- 燃焼開始時や消火後に、「ピシピシ」と音がする
…本体内部が熱により膨張・収縮しますが、時間経過とともに消えます。

着火・消火手順

着火の 前に

- ① 燃焼ポットにたまった灰・ススを取り除きます。
- ② 燃焼ポット(内側)の穴が灰・ススで詰まっている場合は、ブラシ等で取り払ってください。
- ③ 燃焼ポット[外]に燃焼ポット[内]がしっかりはまっていることを確認してください。
※燃焼ポットが傾いていたり、しっかりはまっていないと炎が上に立ち上がり、フラフラします。
- ④ 電源スイッチが「切」になっていることを確認してください。
- ⑤ 燃料タンク内にペレットが入っているか確認します。(補給方法はP10参照)

【シーズン始め】

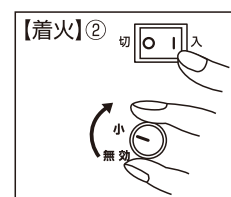
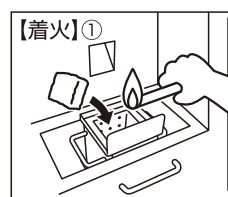
給排気管先端がふさがれていないか、取り付けしたエンドキャップ(オプション)が取り外されているか確認します。

着火

- ① 着火材を燃焼ポットに入れ、ライター等で火をつけます。
※着火材は、ポットの中心に置いてください。
- ② 炎が安定してきたら電源スイッチを入れ、ペレットダイヤルを右に回します。
(排気ファンが作動し、赤ランプ点灯、ペレットが投入されます。)
⚠ ペレットが多く出すぎないように、ダイヤルは「小」で。
- ③ 扉を閉めると給気を始めます。
⚠ 着火材の炎が吹き消される場合がありますので、しっかりと燃えてから扉をゆっくりと閉めてください。

着火材は弊社ホームページにてご紹介させて頂いている着火材を推奨しております。

※使用済みの木の割り箸 再利用可。
※紙類(段ボール・新聞等) 不可。
※ガスバーナー 不可。



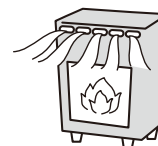
消火

- ① ペレットダイヤルを無効ゾーンまで回し、電源スイッチを「切」にします。
(赤ランプ消灯、ペレット投入は停止します。)
▶ 排気ファンは電源スイッチを切ってから一定時間回った後に停止します。(SS-5・SS-5 Plus…40分 SS-10…60分)
⚠ 電源プラグは排気ファンが停止するまで抜かないでください。
⚠ ストープが過熱し、故障や事故の原因となります。

温風吹き出し

温風 自動

- ① 着火後ストーブ内部が暖まると(50℃以上)、自動的に温風ファンが作動し、温風が吹き出します。
※温風の温度はペレットの投入量により変わります。
※温風の風量は調節できません。
- ② 消火後、電源スイッチを「切」にしても、ストーブ内部が冷えるまで(50℃以下)、温風ファンは回り続けます。
⚠ 温風吹き出し口の前面に障害物を置かないでください。障害物があると部屋の温度にむらができるばかりでなくストーブ本体が過熱して危険です。



8.ご使用方法(2)

火力の調整

火力調整

火力(温度)の調整はペレットダイヤルで行ってください。
送り出す量はペレットによって異なります。(P9参照) 燃烧状態を確認しながら調整してください。

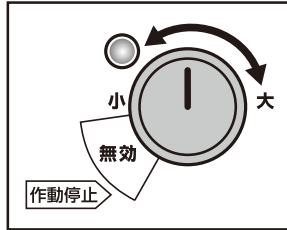
ペレットダイヤルは燃料投入量を無段階で調節します。

※無効ゾーンでは継続燃烧できません。

【SS-5】 約0.5kg/時間 ~ 1.7kg/時間

【SS-5 Plus】 約0.5kg/時間 ~ 1.54kg/時間

【SS-10】 約1.0kg/時間 ~ 3.2kg/時間



炎が大きく、炉内の天井に当たっている
ペレット投入量が多すぎますので、少なくしてください。
不完全燃烧するおそれがあります。

炎が立ち消える
ペレット投入量が少なすぎます。

はじめは大きく

はじめは大きく燃やしてください

燃烧炉内部が一定の温度に達しないと、キレイな燃烧ができない場合があります。
着火後1時間程度は、大きめの炎で燃やしてください。



最初から「小」燃烧を続けると、燃烧ガスが冷えてタール化してしまい、窓ガラスやレンガが黒く汚れます。

一度燃烧炉内の温度が上がると、「小」燃烧にしても汚れにくくなります。

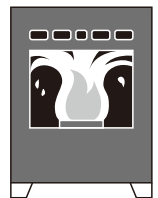
適正火力

【適正最大火力】

炉内天井に炎の先端が触れる程度



大きすぎる



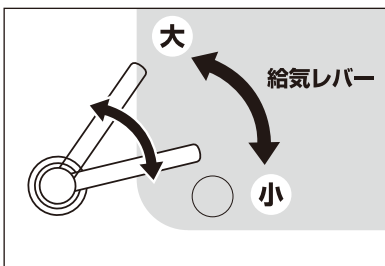
適正以上で燃やすと排気温度が高くなり、燃費が悪くなります。



多く出やすいペレットの場合、設定より多く送り出される場合があります。
その場合、図のような適正最大火力を超え、不完全燃烧により、排気出口から黒煙が発生します。

SS-10のみ

給気量の調節



SS-10のみ燃烧を安定させるため、給気量調節レバーがあります。

このようなときに調節してください。

大燃烧で、ガラスが曇りやすい ➡ 給気量 大きく

大燃烧で、排気口から黒煙が出る ➡ 給気量 大きく

小燃烧で、炎が上がらず、立ち消えしそう ➡ 給気量 小さく

運転中の注意・確認

運転中 注意

- 運転中は絶対に扉を開けないでください。
- 運転中は扉やハンドルは高温になっています。触らないでください。
- お出かけになるときは必ず消火してください。
- 燃料タンクふたを開けたまま運転しないでください。

運転中 確認

- 燃焼ポット内がペレットで山になっていないか。
- 炎が大きすぎないか。
- 特に「小」運転時、炎が立ち消えていないか。
- 燃焼ポット[内]が浮いていると、十分な給気ができず、不完全燃焼(モヤモヤとした炎)となります。しっかりとほまっていることを確認してください。

⚠ 過熱防止装置

ストーブ内部が90℃を超えると、警報ブザーが鳴り、ペレット供給を停止します。警報ブザーが鳴ったら、電源スイッチを「切」にして、次の項目を点検してください。

⚠ 電源プラグは絶対に抜かないでください。排気が停止し、煙が充満します。

熱交換パイプ(8本)が灰・ススで詰まっている ➡ バネブラシで熱交換パイプ掃除をしてください (P16参照)

吸気口アミがホコリで詰まっている ➡ ホコリを取り除いてください (P16参照)

ストーブ前面が障害物でふさがれている ➡ 障害物を取り除いてください

給排気管が灰・スス、異物などでふさがれている ➡ 給排気管の掃除をしてください (P18参照)

上記を点検しても原因がわからない場合は、販売店にご連絡ください。

⚠ 運転中に停電したときや地震が発生したときは

停電時の 対応

- ① 電源スイッチを「切」にします。
⚠ スイッチが入っていると、復旧したときにペレットが投入され続けます。必ず電源スイッチを切ってください。
- ② 「おき火」と「白煙」が完全になくなるまで放置します。
⚠ 内部に白煙がたまりますが、扉は絶対に開けないでください。

地震 発生時の 対応

地震でストーブ本体が揺れを感知すると、感震自動消火装置(赤ランプ消灯・燃料停止)が作動し、ペレット燃料の供給を停止します。
※燃焼ポット内の燃料は燃え尽きるまで燃焼を続けます。

地震が起きたら あわてずに身の安全を確保してください。

⚠ 完全に火種が消えるまで、電源プラグは抜かないでください。

揺れがおさまったら


- ① 揺れがおさまったら、電源スイッチを切ってください。
- ② 扉が完全に閉まっているか確認してください。
- ③ 燃えやすいものをストーブから離してください。
- ④ ストーブには絶対に水をかけないでください。大変危険です。
- ⑤ 余震等の情報により安全が確認されるまで、ご使用は中断してください。

ご使用になる前に

- ① 給排気管にゆるみや外れがないか確認してください。
- ② 排気出口やストーブの周囲に、可燃物がないか確認してください。

9. 日常のお手入れ

 お手入れは消火後、ストーブが十分に冷えてから行ってください。

 完全に火種がなくなっていることを確認してから行ってください。
※消火直後は、火種を吸い込み火災が発生します。

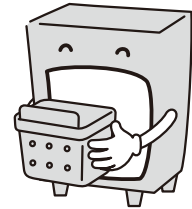
燃焼ポットの掃除

毎着火時

- 1 燃焼ポットにたまった灰・ススを取り除きます。
- 2 燃焼ポット[内]の穴が灰・ススで詰まっている場合は、ブラシ等で取り払ってください。

 穴の詰まりは燃焼の給気を妨げ、着火しづらかったり、不完全燃焼するおそれがあります。

※燃焼ポットに穴が開いた場合、交換が必要です。(交換についてはP21参照)

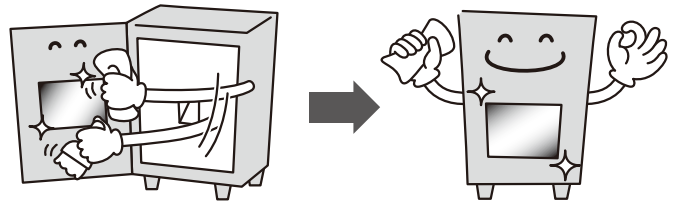


ポットの灰・ススは毎日捨ててね!

ガラス窓の掃除

毎着火時

- 1 灰・ススを落とし、濡れ雑巾で内側を拭き取ります。
※落ちにくい時は、雑巾に燃焼灰を付けたり、市販のガラスクリーナー(薪ストーブ用)をご使用ください。
- 2 水気が残っている時は拭き取ります。

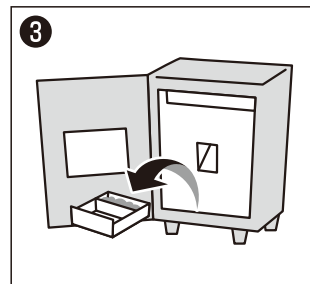
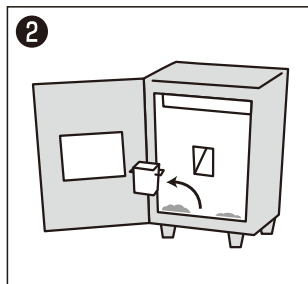
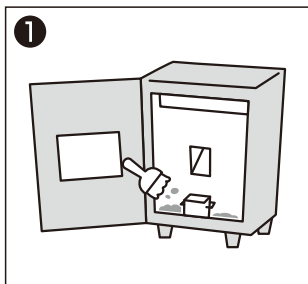


灰・ススの除去

週に1回

 電源スイッチを「入」にし、排気ファンを回します。灰・ススが室内に飛散するのを防ぎます。
※この時、ペレットダイヤルは無効(作動停止)部に合わせてください。

- 1 扉を開け、内部の灰・ススを灰受けに落とします。
- 2 燃焼ポット[内・外]を上引き上げて外します。
- 3 灰受けを引き出し、灰・ススを捨ててください。




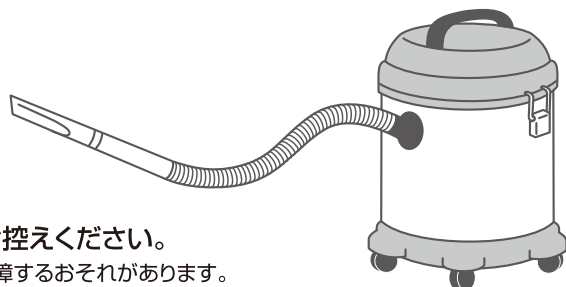
灰受けを戻すときに、奥に異物がないことを確認してから、戻してください。

※灰・ススの処理
灰・ススはお住まいの市町村の条例にしたがって廃棄してください。

おすすめ

集塵機(乾湿両用掃除機)をご使用ください。
※水やごみを同時に吸引可能な掃除機でタンク部分が大きく金属またはプラスチックでできています。

 紙パック式の掃除機や家庭用掃除機はご使用をお控えください。
禁止 ※フィルターが目詰まりしやすく、数回のご使用で掃除機が故障するおそれがあります。



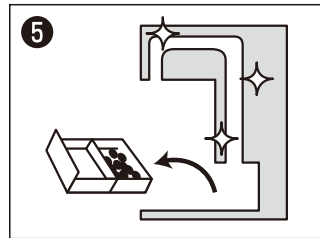
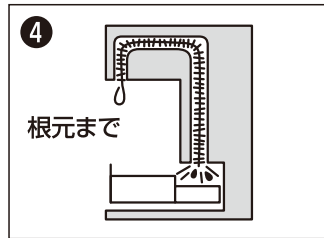
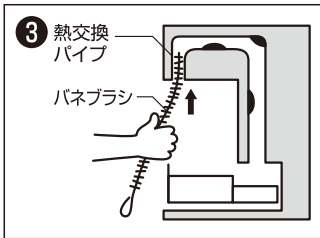
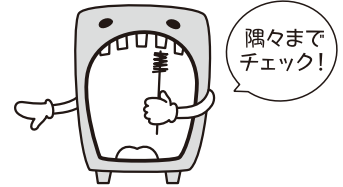


重要 熱交換パイプは内部に灰・ススがたまりまます。内部の灰・ススがたまり過ぎると、暖房能力が落ちて、異常過熱します。(警報ブザーが鳴って停止します。)

熱交換パイプの掃除

月に1・2回

- 1 灰受けは、セットしておいてください。
- 2 電源スイッチを「入」にし、排気ファンを回します。灰・ススが室内に飛散するのを防ぎます。
※この時、ペレットダイヤルは無効(作動停止)部に合わせてください。
- 3 付属のバネブラシを熱交換パイプの手前から差し込んでいきます。入りづらい時は、バネを回すようにして、入れてください。
- 4 8本の熱交換パイプに、バネブラシの根元まで差し込みます。バネブラシの取っ手を残して、全部入ったら、ゆっくりと引き抜いてください。
- 5 灰受けの奥に落ちた灰・ススを取り除いてください。



灰受けを戻すときに、奥に異物がないことを確認してから、戻してください。

※灰・ススの処理
灰・ススはお住まいの市町村の条例にしたがって廃棄してください。



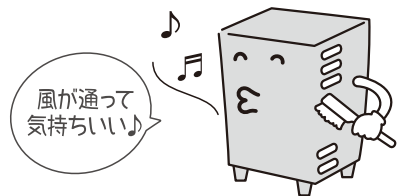
熱交換パイプをこまめに掃除すると、熱交換性能が向上し、燃費節約にもなります。

吸気口アミのホコリ掃除

月に1・2回

天面、側面吸気口アミにたまったホコリをブラシで落としたり、掃除機で吸い取ります。

⚠ 吸気口がホコリで詰まると、暖房能力が落ちて、異常過熱するおそれがあります。



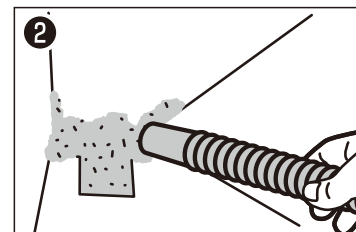
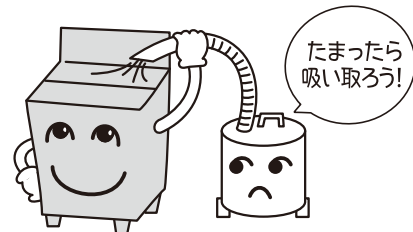
燃料タンクの掃除

月に1回(必要に応じて)

燃料タンク底部分に粉がたまってくると、ペレットが出にくくなります。燃料タンク内を掃除してください。

- 1 手やスコップ等で燃焼タンク内のペレットを取り出してください。
- 2 燃料タンク底にたまっている粉を集塵機で吸い取ってください。

⚠ 手や集塵機をペレット送り部内のスパイラルに挟まない(触れない)よう注意してください。

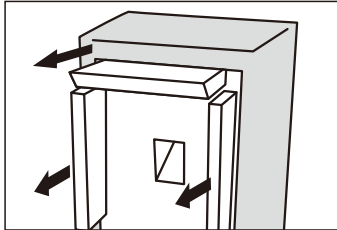


10. シーズンオフメンテナンス

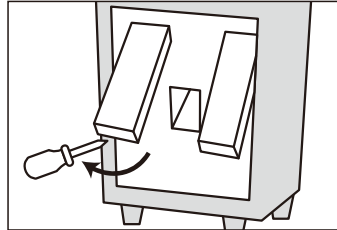
燃焼炉の掃除

燃焼炉内に残った灰・ススは水分を吸い、内部のサビの原因となります。シーズンオフには、燃焼炉内の灰・ススを取り除いてください。

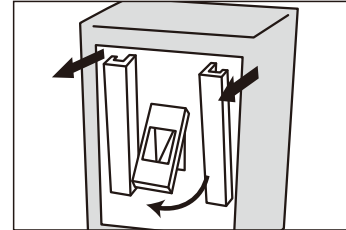
- ① 熱交換パイプの掃除をしてください。(日常のお手入れ P15～16参照)
- ② 燃焼炉内の灰・ススを落とし、燃焼ポット[内・外]と灰受けを外します。
- ③ 燃焼炉内の耐火レンガを外します。



① 天面、両側面のレンガを前方に引き抜きます。
※SS-5 Plus側面は下部から抜きます。

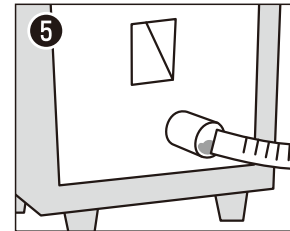


② マイナスドライバー等を下に差し入れ、背面のレンガを外します。



③ 左右のレンガスペース(小)2ヶとレンガスペース(大)を外します。(P6参照)

- ④ 燃焼炉内全体の灰・ススを集塵機等で取り除きます。
- ⑤ 灰受けの奥にある給気管入口に集塵機の口を当て、中の灰・ススやホコリを吸い取ります。
- ⑥ 全ての部品を元に戻します。



レンガが割れるおそれがありますので、取り外しの際は十分ご注意ください。また、水洗いしないでください。

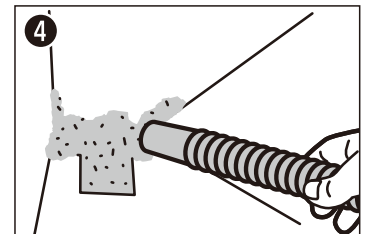
燃料タンクの掃除

燃料タンク内に残ったペレットや粉は水分を吸い、内部のサビやペレット送り部の故障の原因となります。シーズンオフには、燃料タンク内、ペレット送り部からペレットや粉を可能な限り取り除いてください。

- ① 手やスコップ等で燃料タンク内のペレットを取り出してください。
- ② ある程度取り出したら、電源スイッチを「入」にしてください。
※その際、ペレットダイヤルは「大」にしてください。ペレット送り部にペレットが残っていたら、燃焼ポットに落ちてきます。
- ③ ペレットが落ちてこなくなったら、電源スイッチを「切」にします。
※この後、排気ファンは一定時間回り続けます。(SS-5・SS-5 Plus…40分 SS-10…60分)
- ④ 燃料タンク内に残った粉状のものを集塵機で吸い取ってください。



手や集塵機をペレット送り部内のスパイラルに挟まない(触れない)よう注意してください。



掃除の後には燃料タンクにペレットを補給しスイッチを入れても10～15分程、ペレットが出ません。

給排気管の掃除

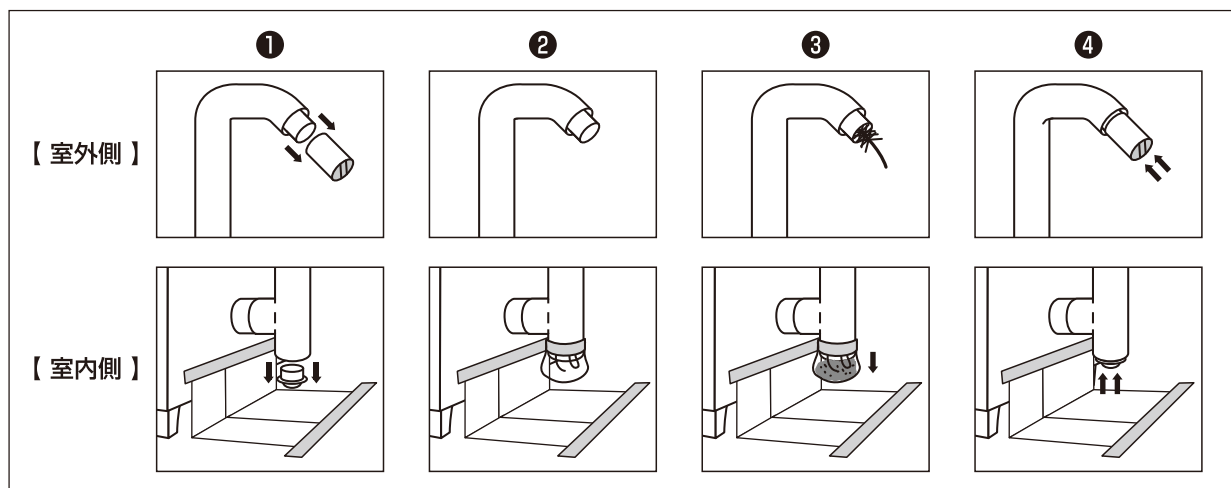
給排気管を抜いての清掃時、抜きづらい場合、無理に引くと破損のおそれがありますので販売店によるメンテナンスをおすすめします。



必ず排気ファンが停止している状態で行ってください。
作動している時にブラシ等が接触すると排気ファンが変形し、故障の原因になります。

排気管内に残った灰・ススは水分を吸って固まり、排気の障害になり、不完全燃焼の原因となります。
シーズンオフには、排気管内の灰・ススを取り除いてください。

室内立上げ設置の場合



① 排気トップとT字管ふたをゆっくりと外します。

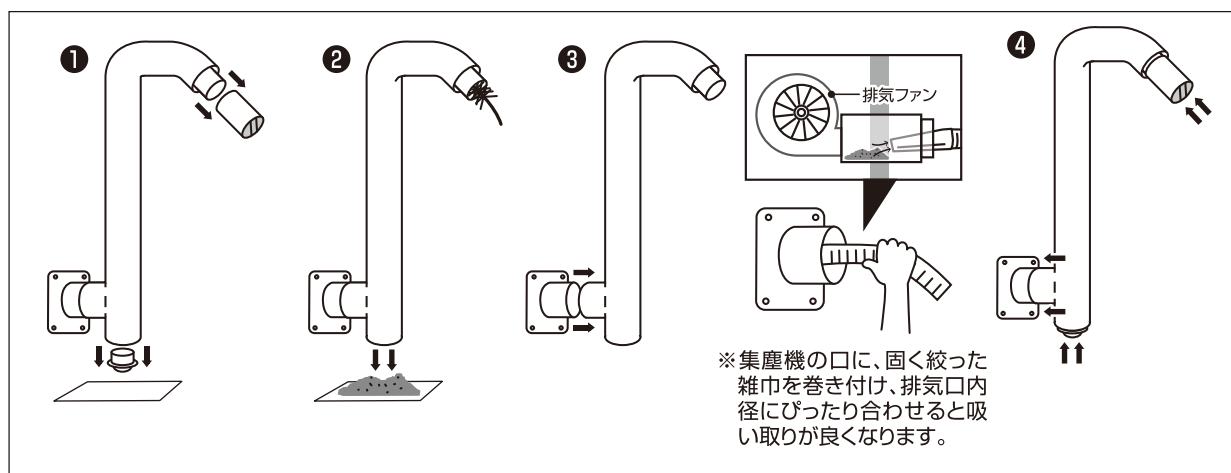
※周囲が灰・ススで汚れないように十分に養生を行ってから作業してください。

② T字管ふたを外したら、管の端をビニール袋等で巻きます。※灰・ススで汚れないように袋を粘着テープでしっかり固定してください。

③ 排気管ブラシ(オプション)等で灰・ススを落とします。

④ 排気トップとT字管ふたを元に戻します。

室外立上げ設置の場合



① 排気トップとT字管ふたを外します。※灰・ススの飛散を防ぐため、下に新聞紙等を敷きます。

② 排気管ブラシ(オプション)等で灰・ススを落とします。

③ 給排気管を外し、内部の灰・ススを集塵機で吸い取ります。※集塵機が排気ファンに当たらないよう注意してください。

④ 排気トップとT字管ふたを元に戻します。



シーズンインには、ペレットの補給(P10)を確認、給排気口の確認、
エンドキャップ(オプション)の取り外しを行い、排気トップを取り付けてください。

11. 故障・異常の見分け方と処置方法

Q1 着火しない、着火時に煙が充満する

①排気出口が閉そくしていませんか？

排気出口が雪や障害物で閉じていたり、給排気管の内部に鳥の巣があると、スイッチを入れても排気できず、着火できません。
排気出口を確認してください。エンドキャップが付いている場合は、取り外してください。

②燃焼ポット[内・外]は、しっかりセットされていますか？(P6参照)

燃焼ポット[内]の穴が詰まっていますか？(P15参照)

燃焼ポット[外]が正しくセットされていないと燃焼空気を正しく送れず、着火できなくなります。



掃除をしても解消しない場合は、排気ファンの故障も考えられます。販売店へ連絡してください。

Q2 ペレットが落ちてこない

①電源プラグはしっかり差し込まれていますか？

本体側・コンセント側の両方をしっかり差し込んでください。

②感震自動消火装置(燃料停止)の鉄球が落ちていませんか？(P8参照)

地震がなくても、何かが当たったときには、鉄球が落ちてしまいます。

③燃料タンク内に粉がたまっていますか？(P16・17参照)

ペレットの粉が燃料タンクの下にたまってくると、ペレットをすくい上げることができなくなる場合があります。

④ペレットを燃料タンクに入れたばかりではないですか？(P9・10参照)

初めてのご使用時やペレットを燃料タンクに入れたばかりの時は、送り部にペレットが充てんされるまで、約15分ほど時間がかかります。
急ぐときは、ペレットダイヤルを「大」方向に調節してください。

⑤燃料タンク内に空洞ができていませんか？

長めのペレットをご使用の場合、燃料タンク内で空洞ができてしまうことがあります。
燃料タンク内のペレットを上から押して、空洞をくずしてください。

⑥燃料タンク内の残量が少なくなっていますか？

燃料送り機構の性質上、タンク内のペレットを全量送り出すことができません。残量が空に近い場合、ペレットが落ちてこなくなる場合があります。ペレットを補給してください。

Q3 運転中に消火(立ち消え)した

①ペレットの投入量が少なすぎではありませんか？(P10参照)

ご使用になるペレットによっては送り出す量が異なります。
ダイヤルの位置にこだわらず、燃焼状態を確認しながら、火力調節してください。

②燃焼ポットが燃え残りでいっぱいになっていませんか？(P6・12参照)

- ・燃焼ポットが正しい位置にセットされていないと完全燃焼できず、炭化状態のペレットがポットいっぱいになり、消火(立ち消え)してしまいます。正しくセットしなおしてください。
- ・燃料が多過ぎたり、燃焼しにくいペレットをご使用の場合も、同じ状態になります。ペレットダイヤルを「小」の方向に調節してください。

③Q2の①～⑥が原因で、ペレットが落ちてこないのではありませんか？

Q4 ガラスがすぐに真っ黒になる、排気出口から黒煙が出る、警報ブザーが鳴る

 不完全燃焼または異常過熱を起こしています。

①ペレットの投入量が多すぎ・少なすぎていませんか？(P10参照)

投入量が多すぎたり、少なすぎると不完全燃焼となりガラスが黒くなります。投入量を調節してください。

②燃焼ポット[内・外]は、しっかりセットされていますか？(P6参照)

- 燃焼ポット[内]の穴が詰まっていますか？(P15参照)
- 燃焼ポット[内・外]が正しくセットされていないと燃焼空気を正しく送れず、不完全燃焼になってしまいます。正しくセットしなおしてください。

③熱交換パイプ内に灰・ススがたまっていませんか？(P16参照)

熱交換パイプが灰・ススで詰まってくると、排気しにくくなり、不完全燃焼を起こします。付属のバネブラシで熱交換パイプ内の掃除を行ってください。

★熱交換パイプ掃除後の灰・ススは「灰受け」の奥の部分にたまります。熱交換パイプ掃除後は必ず灰受けを引き抜いて、たまった灰・ススを取り除いてください。

④炉内に灰がたまっていませんか？

炉内の天井、側面、灰受け、燃焼ポット内・外、すべての灰を取り除いてください。

⑤排気管内が灰・ススで詰まっていませんか？(P18参照)

排気管内に灰・ススが詰まっていると、排気しにくくなります。給排気管の掃除を行ってください。

 掃除をしても解消しない場合は、排気ファンの故障も考えられます。販売店へ連絡してください。

⑥排気がスムーズに流れていない状態ではないですか？(P4参照)

排気出口付近の空気が淀んでいたり、強風が当たる場合、排気不良となり、不完全燃焼を起こします。販売店と相談のうえ、排気出口の改善を行ってください。

⑦給気量は適正ですか？(SS-10のみ)(P13参照)

給気量が適正でないと不完全燃焼の原因となります。
燃料投入量が少ない場合……給気量調節レバーを「小」
燃料投入量が多い場合……給気量調節レバーを「大」に合わせてください。


Q5 炎はきれいに燃えているのに、警報ブザーが鳴る

①吸気口アミがホコリで詰まっていませんか？(P5・16参照)

室内の空気を温風に変えて送り出すための吸気口アミがホコリで詰まると、内部が異常過熱して警報ブザーが鳴ります。ホコリを取り除いてください。

②温風吹き出し口の前方に障害物はありませんか？(P1・4参照)

温風吹き出し口の前方は100cm以上空けてください。

 掃除をしても解消しない場合は、温風ファンの故障も考えられます。販売店へ連絡してください。

12.点検と修理

定期点検、有料メンテナンスのおすすめ

使用頻度や設置状況による違いもありますが、1～2年に一回、お買い求めの販売店による定期点検とメンテナンス(有料)をおすすめします。

- 料金およびシステムは、設置時にお買い求めの販売店にお尋ねください。
- 適正なメンテナンスは保証期間を過ぎた後の製品劣化も防止します。

公共施設や事業所に設置の場合は、年一回のシーズンオフメンテナンスが必要です。

- 日常のお手入れを行う方が交代される設置場所や、不特定多数の方が操作される場合には、販売店による定期点検とメンテナンスが必須となります。

こんなときは有料メンテナンスを!

お客様によるメンテナンスが難しい場合は、販売店によるメンテナンス(有料)をお勧めします。

- ▶ 管理者があいまいな設置場所
- ▶ 2階以上の設置で、外からの配管掃除ができない場所
- ▶ 風当たりが強く、機器内部の不具合が想定される場所
- ▶ 配管が長く、排気抵抗が大きくて、内部に灰・ススが溜まりやすい場合


点検、修理を依頼されるときは

1. 運転中に「異常や故障かな」と思った場合は、P19・20の「故障・異常の見分け方と処置方法」にしたがってお調べください。
2. 上記の方法で直らない場合は、ご使用を中止してください。

 事故防止のためスイッチを切り、消火を確認してから電源プラグを抜いてください。

3. お買い求めの販売店へ、次の内容をご連絡ください。


- 製品名
- 異常や故障の状況(できるだけ詳しく)
- 設置完了チェックリスト(保証書)に記載されている製造番号とお買い上げ日

 保証期間内の修理および部品交換については、P23をご確認ください。
保証期間が過ぎている場合の修理料金については、お買い求めの販売店とご相談ください。
修理料金は、部品代・技術料・出張料金で構成されています。

消耗品について

次の部品は、3年間の保証期間経過後に交換が必要となる場合があります。

- 燃焼ポット[内・外]
- 灰受け
- バネブラシ
- 耐火レンガ
- 扉、ガラスロープ

 消耗品の価格は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

補修用性能部品について

上記消耗品の他、ファン、モーター等の性能部品は生産終了後、10年間ご用意しております。

Memo

3年間の製品保証

保証は「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」へのお客様の署名で発効となります。

本製品は、正しい設置工事と日常のお手入れによって安心してお使いいただけます。

■「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」の説明を受け、全てのチェック欄にチェックが入った状態でお客様のご署名をお願いします。

※全ての欄にチェックが入ることで保証が開始します。

■ご署名いただいた「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」の控えは、大切に保管してください。

■保証期間は3年間(消耗品含み)です。

下記の保証対象(無料修理)規定をご確認ください。

■保証は日本国内においてのみ有効です。

保証対象(無料修理)規定

取扱説明書、設置工事マニュアル、本体貼付ラベルの注意にしたがった正常な設置状態および正常な使用状況で故障した場合には、お買い求めの販売店または弊社指定業者が無料修理または部品交換を行います。無料修理または部品交換が必要になった場合は、ご署名いただいた「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」を、お買い求めの販売店へご提示の上、詳しい症状をお知らせください。

※離島および離島に準ずる遠隔地への設置に際しては、製品保証をおこなうための出張に要する実費を申し受けます。(見積もりの際にご提示します)

※ご転居による製品移設の場合は、事前にお買い求めの販売店または弊社までご相談ください。

次の原因による故障および事故については、保証対象となりません。ご注意ください。

1. 使用を禁止されているペレット燃料や変質したペレット燃料(P9記載)による故障や事故。
 2. 取扱説明書で禁止されている誤った使用方法や不当な修理や改造による故障や事故。
 3. 設置工事マニュアルで禁止されている設置工事による故障や事故。
 4. お買上げ後の弊社指定業者以外による取付場所の移動、落下等による故障や事故。
 5. 火災、地震、水害、落雷、その他の自然災害、公害や異常電圧による故障や事故。
 6. 指定外の電源(P7記載)の使用による故障や事故。
 7. 建物以外(車両、船舶等)に使用された場合の故障や事故。
 8. 設置を禁止された場所(P4記載)への設置による故障や事故。
 9. 条例等に適合しない据付工事が販売店によって行われたことによる故障や事故。
 10. 「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」の提示またはご署名がない場合
- ※この保証は保証書に明示した期間、前述の条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または弊社にお問合わせください。

※お客様にご記入いただいた保証書は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

お客様登録カードについて

- 取扱説明書と一緒にお客様登録カードをお入れしています。ご記入いただき投函してください。メンテナンスのご案内等、情報をご提供いたします。また、故障及び修理の対応を迅速に行うために活用させていただきますので、ご協力ください。



日本の森を育てたい

SAIKAI

株式会社 さいかい産業

〒950-2264

新潟県新潟市西区みずき野2丁目12番9号

電話(025)239-1400 FAX(025)239-1401

www.saikai-sangyo.com